



◀受検組合長会議の様子（能代地区）

受検組合長会議を開催

J Aあきた白神

平成30年産米の概算金・買取米価格について協議する受検組合長会議が、9月14日に管内3地区で開催されました。

このうち能代地区では、受検組合長やJ Aなど約100人が参加。佐藤組合長は「J Aの集荷に結び付ける概算金と、来年以降も実需・消費者との取引関係の強化を図れる販売価格の双方を鑑みて、現段階で最大の価格である13,600円の仮渡金を決めた。今後、さらに追加精算ができるようあきた白神米の販売に努めていく」とあいさつ。その後、東雲地区受検組合長の菊池正さんが、消費者が求める安全・安心な「あきた白神米」を出荷しようなど4項目の申し合わせをし、参加者らは高品質米の生産・出荷を誓い合いました。



▲受検組合長会議の様子（藤里地区）

30年産米の品質検査がスタート

J Aあきた白神

30年産米の初検査が9月25日からJ Aの各倉庫で始まり、品位鑑定資格を持ったJ A職員らが、玄米の形や色、水分量などを確認しました。初日検査分は3,551袋となり全量1等米となりました。

今年は8月下旬から9月上旬の日照不足などの影響で、県北地域の作況指数は98となっています。9月末時点での1等米比率は98.2%、15,751俵となっており、担当者は「カメムシの被害もなくいいスタートを切れた。1等米比率や整粒歩合も高いので品質は申し分ない。今後は圃場ごとの登熟具合を確認して、適期刈り取りに努めてもらいたい」と話していました。



▲粒の大きさや水分量などを検査する担当者



▲収穫作業を行う高橋代表と生徒

東中生が園芸メガ団地で農業体験

営農企画課

能代東中学校1年生の生徒6人が10月4日、総合的な学習の時間で園芸メガ団地を訪れ農業体験を行いました。

（農）轟ネオファームを訪れた生徒らは、高橋裕代表から園芸メガ団地内の施設や調整作業などの見学を行った後、圃場に移り白神ねぎの収穫体験を行いました。生徒らは、1人1人収穫機に乗り、高橋代表と収穫作業を行いました。星川大翔君は「高橋代表の話を聞き、白神ねぎがどうやって作られているのか、そして、全国的に有名になった理由を知ることができました。収穫体験もできてとてもいい経験になりました」と話してくれました。

